一「ヤップ」島及他ノ赤道以北ノ太平洋委任統治諸島ニ關スル日米條約御批准ノ件

一關東廳官制中改正ノ件

第一記

大正十一年六月二十一日

正

国立公文書館
利用上の注意
枢密院会議筆記及び同委員会録は、非公開の席上における発言を記録したものであります。したがって当該発言者の共同著作物と解されますので、引用等発表に際し著作権法上の問題の生ずることのないよう特に御配慮願います。

国立公文書館
分類
配架番号
2 A
15－9
枢 D 494

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

# 樞密院會議筆記

一 日米條約御批准ノ件

一 關東廳官制中改正ノ件

一 ヤップ島及他ノ赤道以北ノ太平洋委任統治諸島ニ關スル

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

大正十一年六月二十一日（水曜日）午前十時四十分開議

攝政宮御臨場被為在

出席員

清浦議長

濱尾副議長

大臣

加藤（内閣總理大臣 兼海軍大臣）四番

内田外務大臣 五番

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

大木鐵道大臣　六番
山梨陸軍大臣　七番
岡野司法大臣　八番
水野内務大臣　九番
荒井農商務大臣　十番
市来大蔵大臣　十一番
鎌田文部大臣　十二番
前田逓信大臣　十三番

顧問官

伊東顧問官　十四番
細川顧問官　十六番
金子顧問官　十八番
南部顧問官　十九番
三浦顧問官　廿一番
曾我顧問官　廿二番
穂積顧問官　廿三番
安廣顧問官　廿四番
岡部顧問官　廿五番
一木顧問官　廿七番
久保田顧問官　廿八番

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

顧問官

富井顧問官　廿九番
井上顧問官　三十番
平山顧問官　卅一番
石黒顧問官　卅二番
有松顧問官　卅三番
珍田顧問官　卅四番
倉富顧問官　卅五番
松岡顧問官　卅六番
中村顧問官　卅七番

皇族

貞愛親王　一番
載仁親王　二番
依仁親王　三番

顧問官

九鬼顧問官　十七番
都筑顧問官　二十番
黒木顧問官　廿六番

委員

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

馬場法制局長官

各件二付

埴原外務次官

山川外務省條約局長

米田遞信省通信局長

天城外務事務官

以上「ヤップ」島及他ノ赤道以北ノ太平洋委任統治諸島ニ關スル日米條約御批准ノ件二付

赤池拓殖局長官

土岐關東廳事務總長

西山關東廳事務官

以上關東廳官制中改正ノ件二付

報告員

伊東顧問官

「ヤップ」島及他ノ赤道以北ノ太平洋委任統治諸島ニ關スル日米條約御批准ノ件二付

二上書記官長

關東廳官制中改正ノ件二付

書記官長

二上書記官長

書記官

清水書記官

入江書記官

村上書記官

堀江書記官

議長（清浦） 是ヨリ開會ス

「ヤップ」島及他ノ赤道以北ノ太平洋委任統治諸島ニ關スル日米條約御批准ノ件

本件ハ先例ニ依リ讀會ヲ省略シテ大體議ニ止メ朗讀ヲ省略シ審査委員長ノ審査報告ヲ求ム

報告員（伊東） 各位閣下今回本院ニ御諮詢アリテ小官等其ノ審査委員ノ命ヲ蒙リタル條約御批准ノ諸件ノ中「ヤップ」島及他ノ赤道以北ノ太平洋委任統治諸島ニ關スル日米條約御批

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

准ノ件ハ急速處理ヲ要スル旨政府當局ノ希望アリタルニ由リ審査委員會ニ於テハ其ノ意ヲ諒トシ山東懸案解決ニ關スル條約御批准ノ件ト併セテ先ツ以テ本件ノ審査ニ從事シ爰ニ其ノ結果ヲ報告スルノ時期ニ達シタリ

各位御兼知ノ通獨逸國ハ其ノ海外屬地ニ關スル一切ノ權利及權原ヲ主タル同盟及聯合國即チ日、英、米、佛、伊ノ五大國ノ為ニ拋棄スル旨對獨平和條約第百十九條ニ規定シ又同條約第二十二條ノ所謂委任統治ニ關スル規定ニ依レハ該舊獨逸領地域ノ施政ニ付テハ適當ナル受任國ニ於テ國際聯盟ニ代リ後見ノ任務ヲ分擔スヘキモノトセルニ由リ大正八年五月聯合國ノ最高會議ハ受任國及委任地域ノ割當ヲ決定シ其ノ内「ヤップ」島其ノ他赤道以北ノ舊獨逸領諸島全部ヲ以テ帝國ノ委任統治ニ屬セシムルコトト為シ踰テ大正九年十二月聯盟理事會ハ右最高會議ノ決定ニ基キ對獨平和條約第二十二條ノ規定ニ據リ右

地域ノ施政ニ關スル委任統治條項ヲ決定シ
我帝國ハ右委任ヲ受諾シ且委任統治條項ニ
同意シタリ然ルニ大正九年十月華盛頓ニ於
テ國際通信豫備會議開催セラレタル際其ノ
會議ニ於テ「ヤップ」島ヲ通過スル舊獨逸海底電
信線三線ノ歸屬ヲ協議スルニ當リ米國政府
ハ右「ヤップ」島ノ地位ニ關シ異議ヲ述ヘ大正八
年五月ノ聯合國最高會議決定以前ニ「ヤップ」島
カ太平洋ニ於ケル國際電信ノ中樞タル地位
ヲ占ムルノ故ヲ以テ之ヲ國際管理ニ付セム
コトヲ提唱シタリ然ルニ該會議ハ當時此ノ
米國ノ提案ニ對シ何等積極的表意ヲ為ササ
リシニ由リ「ヤップ」島ノ地位ハ依然トシテ未解
決ノ狀態ニ在ルモノトシ之ヲ我帝國ノ委任
統治地域ニ包含セシムルコトハ米國ノ承認
スルコト能ハサル所ナル旨ヲ主張シタル次
第ナリ其ノ後大正十年四月ニ至リ米國新政
府ハ前ノ政府ノ提唱シタル主張ヨリモ一層
其ノ論旨ヲ擴張シ同國カ對獨平和條約ヲ批
准セサルノ故ヲ以テ同條約及之ニ基ク決定

ニ拘束セラルルコトナシト論シタルノミナラス尚戰勝ノ權利トシテ各聯合與國ト同樣ノ利益ヲ享有スヘキモノト論爭シ又米獨間講和條約ヲ締結シタル結果獨逸國カ五大國ノ為ニ抛棄シタル諸般ノ利益ニハ米國モ亦均霑シタルモノトノ主張ヲ為シ根本的ニ我帝國ノ委任統治ヲ非議スルノ見地ヲ採リ本件ヲ以テ再ヒ聯合國最高會議ノ審議ニ付セムコトヲ要望スルニ至リシ次第ナリ此ノ時ニ當リ列國モ米國ノ主張ニ耳ヲ傾ケ一時之ヲ承諾セムトスルノ形勢アリシモ結局此ノ問題ハ日米兩國間ノ直接交渉ニ依リテ圓滿ナル解決ヲ見ムコトヲ希望スルコト當時列國ノ意思ノ歸着スル所ナリキ列國ノ嚮背此ノ如クナリシヲ以テ帝國ハ中外ノ形勢ヲ顧念シ此ノ際從來ノ法律的論難ヲ旨トスルヨリモ寧ロ實際的考察ニ基キテ兩國間ニ直接交渉ヲ遂ケ以テ本件ノ解決ニ達セムコトヲ得策トスルニ決シ彼我ノ間ニ彼此照復ヲ重ネタル結果稍ク日米兩國間ニ意見ノ一致ヲ

見終ニ本條約締結ノ協議調ヒ本年二月十一日華盛頓ニ於テ兩國全權委員ノ調印ヲ了スルニ至レリ抑米國カ當初ヨリ此ノ如ク「ヤップ」島ノ地位ニ關シテ異議ヲ挾ミタル直接ノ動機ハ果シテ何レニアルカト云フニ固ヨリ同島ヲ通過スル三海底電信線ノ處分問題ニ存シタルコト云フ迄モナキコトナルカ此ノ問題ノ成行果シテ如何ニ為レルカニ付政府當局ノ説明ニ依レハ最近華盛頓ニ於ケル五大國商議ノ結果「ヤップ」ー上海線ヲ帝國ニ「ヤップ」ー「グァム」線ヲ米國ニ、「ヤップ」ー「マナド」線ヲ和蘭國ニ歸屬セシムルコトニ既ニ協定成立シ追テ太西洋其ノ他ノ舊獨逸海底電信線ノ處分ト一併シテ之ヲ決定スルノ運ニ到ルヘシト言フ

本問題ニ付日米間交渉經過ノ概要右ノ如シ此ノ交渉ノ結果成立シタル本條約ニ就テ之ヲ見ルニ本條約ハ米國ヲシテ帝國ノ「ヤップ」島其ノ他諸島ニ對スル委任統治ヲ確認セシムルコト及該地域ノ施政ニ關シ米國ニ特殊ノ便宜ヲ與ヘ且「ヤップ」島ニ於ケル電氣通信ニ關

シ同國ニ特殊ノ地位ヲ認ムルコトノ二事ニ
存ス此ノ條約ノ實質ヲ精査シ且其ノ條項ノ
要旨ヲ開陳スレハ次ノ五點ニ歸ス
先ツ第一點トシテ米國ハ帝國カ日、英、佛、伊ノ
四國間ノ協定ニ基キ聯盟理事會所定ノ委任
統治條項ニ據リテ「ヤップ」島其ノ他太平洋中赤
道以北ニ位スル一切ノ舊獨逸領諸島ノ施政
ヲ行フコトニ同意ス是レ即チ米國カ前来ノ
異議ヲ拋棄シ四大國間ノ確定議ニ同意シテ
右地域ニ於ケル帝國ノ委任統治ヲ承認シタ
ルモノナリ但シ此ノ同意ヲ米國カ與フルニ
付之ニ對シテハ數箇條ノ條件ノ附帶スルモ
ノアリ第二點以下ニ逐次之ヲ陳述スヘシ
第二點トシテ米國カ前記地域ニ於ケル帝國
ノ施政ニ關シ其ノ享有スル利益ヲ大別シテ
次ノ六項ト為ス
其ノ第一項ハ委任統治條項第三條乃至第
五條ニ規定スル所即チ帝國カ該地域ニ於
テ奴隷賣買ヲ禁止スルコト、公共事業ノ為
ニスルニ非サレハ强制勞働ヲ課セサルコ

ト、武器彈藥ノ取引ヲ取締ルコト、土著民ニ
對スル火酒類ノ供給ヲ禁止スルコト、原則
トシテ土著民ニ軍事教育ヲ施ササルコト、
陸海軍根據地及築城ヲ建設セサルコト、支
障ナキ限リ良心ノ自由及各種禮拜ノ自由
執行ヲ確保シ宣教師ヲシテ其ノ職務ノ為
在住旅行スルヲ得シムルコトニ付米國ハ
國際聯盟國ト同一ノ利益ヲ受クルコト、
取極ナリ
其ノ第二項トシテ一切ノ宗教ノ米國人宣
教師ハ該地域ニ於テ在住旅行、財産ノ取得
占有、宗教的建物ノ建設、學校ノ開設等ノ自
由ノ有スル尤モ我帝國ハ此等ノ自由ニ對シ
テ監督ヲ行ヒ之カ為必要ナル措置ヲ執ル
コトヲ保留ス茲ニ述ヘタル米國人宣教師
ノ財産ノ取得占有ハ當局ノ説明ニ依レハ
大體ニ於テ宣教師タルノ職務執行ノ為ニ
スルモノニ限ルノ趣旨ナリト言フ
其ノ第三項トシテ右地域ニ於ケル米國人
ノ既得財産權ハ如何ナル手段ニ依ルモ侵

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

害セラルルコトナシ此ノ點ニ付當局ノ說明ニ依レハ此ノ既得財産權ハ本條約成立ノ際現存スルモノニ限リ將來取得セラルルモノヲ含マススヌ又之ニ對シテハ公用徵收ヲモ行フコトヲ許ササルノ趣意ナリト言フ

其ノ第四項トシテ日米通商航海條約其ノ他兩國間ニ現存スル諸條約ハ之ヲ右委任統治地域ニ適用スルノ約束ナリ茲ニ此ノ事ヲ條件トシタル所以ハ帝國關係ノ國際條約ハ當然委任統治地域ニ適用セラルルモノニ非サルカ故ニ日米兩國間ニ特ニ之ヲ約定スルノ趣意ニ出テタリト當局ハ說明セリ

其ノ第五項トシテ米國ハ帝國カ國際聯盟理事會ニ提出スヘキ義務ヲ負ヘル委任統治年報ノ複本ノ送致ヲ受クル旨ノ取極ナリ

其ノ第六項トシテ今後聯盟理事會所定ノ委任統治條項カ變更セラルルコトアルモ

米國カ之ニ同意セサル限リ本條約ノ規定ハ右委任統治條項ノ變更ニ依リテ影響セラルルコトナシトノ約束ナリ乍併帝國外交ノ方針トシテハ國際聯盟ニ對シテ約スル所ト米國ニ對シテ約スル所ト抵觸スルヲ許ササルコト論ヲ俟タサルカ故ニ結局帝國ハ米國ノ同意ヲ經タル後ニ非サレハ委任統治條項ノ變更ニ對シ恣ニ同意ヲ表スルヲ得サル立場ニ在ルモノナリ

飜テ本條約ノ要旨第三點トシテ米國及其ノ國民ハ「ヤップ」島ニ於ケル海底電信線ノ陸揚及運用竝無線電信ニ依ル通信ニ關スル一切ノ事項ニ付我帝國又ハ他ノ各國及其ノ國民ト全然均等ノ地歩ニ於テ同島ニ出入スルコトヲ得ルノ權利ヲ有スル尤モ我帝國カ同島ニ無線電信局ヲ設立維持シ内外ノ通信ニ對シ無差別且有效ノ取扱ヲ為ス限リ米國又ハ米國民ハ同島ニ無線電信局ヲ設立スルノ權利ヲ行使セサル次第ナリ

第四點トシテ米國及其ノ國民ハ「ヤップ」島ニ於

テ電氣通信ニ關シ概ネ八項ニ亘ル利益ヲ享有ス以下逐次之ヲ開陳スレハ

其ノ第一項トシテ米國國民ハ無制限ノ居住權ヲ有シ米國及其ノ國民ハ日本國又ハ他ノ各國及其ノ國民ト同等ニ一切ノ動産不動産及之ニ關スル利益ヲ取得保持スルノ權利ヲ有ス

其ノ第二項トシテ米國民ハ電氣通信ニ關スル權利ニ付許可又ハ免許ヲ受クルノ義務ヲ負ハス

其ノ第三項トシテ電氣通信ノ運用又ハ通信ニ關シ檢閲又ハ監督ヲ受クルノ義務ヲ負ハス

其ノ第四項トシテ米國民ハ其ノ身體財産ニ付同島出入ノ完全ナル自由ヲ有ス

其ノ第五項トシテ電氣通信ノ運用又ハ財産、人、船舶ニ關シ一切ノ租稅課金及取立金ノ徵收ヲ受クルコトナシ

其ノ第六項トシテ差別的警察規則ヲ適用セラルルコトナシ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

其ノ第七項トシテ我帝國ハ米國又ハ其ノ
國民ノ為電氣通信事業上必要己ムヲ得サ
ルトキハ公用徴收權ヲ行フヘキモノトス
其ノ第八項トシテ電氣通信ニ供用セラル
ル米國又ハ其ノ國民ノ財産ハ公用徴收ヲ
受クルコトナシトノ取極ナリ
終ニ本條約ノ要旨第五點トシテ本條約ハ批
准ヲ要シ批准書ハ成ルヘク速ニ華盛頓ニ於
テ之ヲ交換スヘク批准書交換ノ日ヨリ實施
ノ效力ヲ生スヘキモノトノ取極ナリ

本條約ノ要旨ハ概要右ノ五點ニ歸着スヲ而シ
テ本條約ニ其ノ附屬トシテ日米兩國間交換
公文ノ二件ヲ伴フ其ノ一ハ帝國カ委任統治
諸島ノ港及水面ニ到来スル米國ノ國民及船
舶ヲ遇スルニ常例ノ國際禮讓ヲ以テスヘキ
コトヲ定メタルモノナリ此ノ事ハ始メ米國
カ右諸島ノ各地ニ自由ニ出入スルノ權利ヲ
得ムコトヲ主張シタルニ對シ帝國カ之ニ反
對シタルノ結果兩國間ニ成立シタル了解事
項ニシテ日米通商航海條約ヲ該諸島ニ適用

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

スルニ於テハ實ハ別段ノ效益ナキモノナル
旨當局ニ於テ説明セリ其ノ二ハ米國カ他日
赤道以南ノ舊獨逸領諸島ノ受任國タル濠洲
及新西蘭ト通商條約ヲ締結スルニ當リテハ
其ノ條約ヲ右諸島ニ及ホサムコトヲ要求ス
ヘキ旨並米國カ他日我帝國以外ノ受任國ニ
對シ其ノ委任統治ニ同意スルノ條約ヲ締結
スルニ當リテハ其ノ施政年報ノ複本ノ送付
ヲ要求スヘキコトノ二事ヲ定メタルモノニ
シテ此ノ二件ハ帝國カ他ノ受任國ニ先ンシ
テ米國ニ許諾スルコトヲ難シタルニ對シ米
國カ他國ニ向テモ必ス同樣ノ要求ヲ為スヘ
キコトヲ保障シタルモノナリ
本條約成立ニ到ル迄ノ日米兩國間交渉ノ經
過及本條約ノ解説ニ付テハ外務當局ノ作成
ニ係ル「ヤップ」島問題ニ關スル交渉經過及本條
約ノ解説概要ト題スル別冊ニ記載スル所ア
リ同書ハ既ニ各位ノ御手元ニ配付セラレタ
ルヲ以テ各位夙ニ御精閲ノコトト信ス
以上陳述シタル日米間交渉ノ經過及本條約

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ノ内容ニ付小官等審査委員ノ命ヲ兼ケタル
以来逐日審議ヲ遂ケタル結果ヲ次ニ開陳ス
ヘシ
抑帝國ノ委任統治ニ關スル米國ノ異議ハ始
メハ同國カ「ヤップ」島ヲ帝國ノ委任統治地域ニ
包含セシムル旨ノ聯合國最高會議ノ決定ニ
留保ヲ付シタリト主張スルニ過キサリシカ
其ノ後ニ至リ同國カ對獨平和條約ヲ批准セ
サルヲ以テ何等拘束ヲ受ケスト為シ論爭ハ
一層激烈ト為リ其ノ間事態頗ニ重大ヲ加ヘ
タリ此ノ事ニ付退テ考フルニ當初聯合國最
高會議ニ於テ米國カ異論ヲ唱ヘタルヲ以来周
密ナル用意ヲ以テ事ヲ執リ米國ヲシテ非議
ヲ肆ニスル餘地ナカラシムルコト又米國ノ
措置ニ對抗シテ之ニ處スヘキ機宜ノ措置ヲ
講スルコトニ於テ我カ政府當局ノ所作果シ
テ克ク遺算ナキヲ得タルカ蓋シ幾分ノ疑惑
ナキニアラサルナリ然レトモ此クノ如キハ
事全ク既往ニ屬シ今ニ於テハ草ヲ發キテ蛇
ヲ尋ヌルト等シク何等益ナキコトナリ若シ

本條約ノ成立ニ因リテ兩國間前來ノ爭議ヲ解決シ兩國ノ交誼ニ一段ノ親善ヲ致シ以テ帝國大局ノ地位ニ利スル所アルコトヲ得ハ是ト實ニ國家ノ慶幸ト謂ハサルヘカラスト確信ス即チ小官等ハ此ノ見地ニ於テ本條約ハ帝國ニ於テ之ヲ採納スルノ最終ノ決定ヲ與ヘラルルコトヲ已ムヲ得サル所ナリト思料ス乍併小官等此ノ決定ヲ為スニ方リ更ニ所懷ヲ述ヘテ當局ノ省慮ヲ促スヘシト認ムルモノ二三アリ茲ニ其ノ事項ヲ述フヘシ

其ノ注意事項ノ第一點トシテハ本條約ノ條項及附屬公文ヲ通看スルニ當路諸官ニ於テ或ハ嚴正ナル觀念ト周到ナル注意トニ缺クル所ナキニシモ非サリシカヲ疑ハシムルモノアリ試ニ其ノ一二ヲ指摘セムカ第二條第二項第一號ニ掲クル米國人宣教師ノ財産ノ取得占有ハ委任統治條項第五條ノ如キ制限ノ文字ナキニ拘ラス果シテ當局ノ説明セラルル如ク其ノ取得占有ハ必ス宣教師タル職務執行ノ為ニスルモノニ限ルノ趣旨ニ解セ

テルヘキカ又同條同項第二號ニ所謂米國人ノ既得財産權ハ本條約成立ノ際現存スルモノニ限テルヘキカ將未取得スルモノニ決シテ及ハサルカ之ニ對シテハ何人ノ為ニモ又如何ナル事業ノ為ニモ果シテ公用徵收ヲ許ササルノ意明瞭ナルカ附屬公文第一ニ定メタル常例ノ國際禮讓ヲ以テ米國ノ國民及船舶ヲ遇スヘシトハ果シテ何ヲ意味スルカ此等ノ諸點カ他日實地ニ臨ミテ日米兩國間ニ紛爭ノ種因タラサルナキカヲ惧ルルハ必スシモ机上ノ空論一片ノ杞憂ノミニ非サルナリ要スルニ當局諸官カ本條約訂結ノ際其ノ條項ノ編成ニ一層ノ用意ヲ加ヘテ此クノ如キ疑義ヲ貽ササルノ途ニ出テサリシコト本官等ノ深ク遺憾トスル所ニシテ今後本條約ヲ實施スルニ當リ當路諸官ニ於テ周到ナル注意ヲ施シ適正ナル解釋ニ依リ帝國ノ利益ヲ保有スルニ遺算ナキ樣努メラレムコト本官等ノ切望ニ堪ヘサル所ナリ

次ニ注意事項ノ第二點トシテ本件交渉ノ際

帝國カ日米間協定ニ依リ他ノ受任國ニ先ンシテ對米諸條約ヲ委任統治地域ニ適用シ又施政年報ノ複本ヲ米國ニ送付スル旨ヲ約諾スルコトノ二件ヲ難シタルハ素ヨリ當然ノ主張ナリ然ルニ商議ノ結果米國ヲシテ絶ニ附屬公文第二ニ依リ他ノ受任國ニ對シテモ亦同樣ノ要求ヲ為スヘキ旨ヲ聲明セシムルニ止リ之ヲ以テ我方ノ主張ヲ撤回スルニ至リタルハ果シテ克ク失當ノ譏ヲ免ルヘキカ若シ米國ノ該要求ニ對スル他ノ受任國ノ應諾ヲ以テ帝國カ前述二件ノ義務ヲ履行スルノ必要條件ト為シ且此ノ趣旨ヲ本條約ノ本文ニ昭明スルコトヲ得タラムニハ帝國ノ利益ヲ確保スルニ於テ略〻意ヲ安ンスヘキモノアリ事此ニ出テサリシハ本官等ノ切ニ遺憾トスル所ナリトス又附屬公文第二ニ於テ太平洋上赤道以南ノ舊獨逸領諸島ノ受任國トシテ濠洲及新西蘭ヲ擧クルニ止マリ右諸島中「ナウル」島ノ受任國タル英本國ニ及ハサリシハ亦闕漏ノ一タルヲ免レサルヘク特ニ一

言シテ當局ノ注意ヲ促サムト欲ス抑此ノ項目ニ定メタル事項ハ各受任國ニ共通セル問題ナルヲ以テ萬一帝國ノミ獨リ此ノ義務ヲ負擔スルニ終ラムカ國家ノ不面目言ヲ俟タサルカ故ニ政府當局ニ於テ其ノ間ニ處スル機宜ノ措置ヲ誤ラサラムコト本官等ノ切ニ希望スル所ナリトス

本條約ノ條項ニ付テハ右申述ヘタル如ク特ニ意見ヲ附スヘキモノナキニアラスト雖其ノ成立ニ至ル迄ノ經過ニ顧ミ大局ノ利害ニ考ヘ又米國ニ於テモ既ニ之ヲ批准シタリトノコトナルヲ以テ帝國ニ於テモ之ヲ兼認スルノ外ナシト思料セラルルニ依リ審査委員會ニ於テハ本案ノ條約御批准ノ件ハ之ヲ可決セラレ然ルヘキ旨前述ノ注意事項ト共ニ全會一致ヲ以テ議決シタリ

本件ニ付各位御質疑ヲ要セラルルニ於テハ幸ヒ政府當局ノ御出席アルコトナレハ御質問ニ應シ夫々説明ノ勞ヲ執ラルルナラムト信ス

四番（加藤）　只今「ヤップ」島及他ノ赤道以北ノ太平洋委任統治諸島ニ關スル日米條約御批准ノ件ニ付審査委員長ヨリ詳細ナル御報告アリ御報告中ニハ今日迄ニ當局ノ取リタル措置ニ付又條約ノ條項ニ關シ將来取ルヘキ措置ニ付二三注意セラルル所アリ此等ノ點ニ付政府ニ於テモ今後努メテ御希望ニ副ハムコトヲ期ス御承知ノ如ク本條約ハ多年ノ懸案タリシモノヲ茲ニ解決セムトスルモノナレハ何卒速ニ御可決アラムコトヲ望ム

議長（清浦）　別ニ御發議モナキモノト認メ直ニ採決スヘシ本案賛成ノ諸君ノ起立ヲ請フ

（全會一致可決）

○

議長（清浦）　次ニ

關東廳官制中改正ノ件

ヲ議題トシ第一讀會ヲ開キ朗讀ヲ省略シ直ニ審査報告ヲ為サシム

報告員（二上）　謹テ審査スルニ本案ハ關東廳ニ於テ諸般事務ノ増進ニ伴ヒ警視以下職員ノ

定數ヲ增加シ又ハ新ニ職員ヲ設置セムトスルモノナリ即チ先ツ奏任官ニ於テハ警務署長ニ充ツル為警視二人ヲ增加シ次ニ判任官ニ於テハ關東州裁判事務取扱令中ノ改正ヲ以テ新ニ土地ニ關スル登記ノ制度ヲ施行シ又關東州酒稅令及關東州煙草稅令ヲ施行スルニ伴ヒ其ノ他會計地方行政ノ監督初等學校ノ指導監督警察事務等諸般事務ノ增加ニ應スル為屬警部警部補技手及雛譯生ヲ各若干人增加シ尚前陳ノ酒稅令及煙草稅令ノ施行ニ伴ヒ茲ニ新ニ稅務吏ト稱スル判任官ヲ設置セムトスルモノナリ

要スルニ本案ハ諸般事務ノ必要ニ應シ下級官吏ノ定員ヲ增加又ハ新設セムトスルモノニシテ其ノ內容極テ簡單ナルニ由リ此ノ儘之ヲ可決セラレ然ルヘシト思料ス

右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

議長(清浦) 本案ニ付テモ別ニ御發議ナキモノト認メ讀會ヲ省略シテ直ニ採決スヘシ本案贊成ノ諸君ノ起立ヲ請フ

（全會一致可決）

攝政宮御退場

（午前十一時二十分閉會）

議長子爵清浦奎吾

書記官長二宮治明

書記官

村上恭一

堀江季雄

御批准案

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國及亞米利加合衆國ノ全權委員カ亞米利加合衆國華盛頓ニ於テ大正十一年二月十一日署名調印シタル「ヤップ」島及他ノ赤道以北ノ太平洋委任統治諸島ニ關スル日米條約ヲ閲覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百八十　年大正　年　月　日

ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽

ヲ鈐セシム

御名
攝政名

國璽

外務大臣

勅令第　號

關東廳官制中左ノ通改正ス

第十五條中「警視　專任十人」ヲ「警視　專任十二人」ニ、「百二十人」ヲ「百八十人」ニ、「視學　專任二人」ヲ「視學　專任七人」ニ、「五十二人」ヲ「五十九人」ニ、「三十九人」ヲ「四十四人」ニ、「翻譯生　專任十八人」ヲ「翻譯生　專任　判任　稅務吏　專

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/